

クラス番号	928	担当教員名	辻村 大生
テーマ	“知多みるく” というキャラクターと知多地域のまちづくり		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等：			
皆さんは、「知多みるく」もしくは「知多娘。」をご存知だろうか？ちた地域若者サポートステーションのPRキャラクターとして2009年に登場した知多半島のイメージキャラクターであり、いわゆる“萌え系”キャラクターである。 近年では、彦根市の「ひこにゃん」など、地域活性化やまちづくりを情報発信していくとき、キャラクター設定というのは一つのツールとなっている。また、萌え系キャラという存在が、秋葉原の新たな文化的意味を造り出しているという例もある。 私たちがそうしたキャラクターと出会う時、そうしたキャラクターの発信する意味を受容し、サブカルチャーとして消費している。 本ゼミナールでは、知多みるくを素材として、キャラクターの意味を発信し、また受容することをめぐって生み出される文化を読み解きつつ、それが知多地域のまちづくりや地域活性化とどのような関係にあるのか、どのような役割を担いようのかを探っていくことを目的とする。 本ゼミナールの内容は、おおよそ以下の3点である。1）文化研究の一つの方法、視点である「カルチュラル・スタディーズ」の文献を読み、文化研究を行なうためのツールを身につける。2）知多みるく、知多娘。に関するメディアが発信する情報、資料を収集・整理する。3）必要に応じて、まちづくりの現場に出向いたり、キャラクターをめぐる人々、組織などのインタビュー調査を実施する。 本ゼミナールでは、上記テーマで進めていくために、方法としてカルチュラル・スタディーズという手法を用いていく。			
授業計画：（おおよその案）			
・ 年間を通じて、おおよそ1ヶ月に 1、2 回ほどは、カルチュラル・スタディーズの文献講読（＊講読文献は担当教員が用意します）			
4～6 月：知多みるく、知多娘。に関する情報収集と整理。およびキャラクターとまちづくりに関する文献の収集整理			
7 月：研究視点、研究仮説に関するディスカッションとまとめ			
9～11 月：フィールドワーク（まちづくりの現場や関連する組織へのインタビュー調査など）			
12～1 月：分析や調査のまとめ			
担当教員からのメッセージ			
自分たちが住んでいる知多半島という地域の活性化やまちづくりに関心がある方をお待ちしております。 なお、本ゼミナールでは、萌え系キャラクターを扱いますが、ただ単にそういったキャラクターが好きだというだけでなく、そういうものを“真面目に”文化研究をしてみたいという方をお待ちしております。			